

1. 座標のずれ対応 3

新メニュー[一括処理]-[座標のずれ対応 3]を追加しました。

メニュー

座標のずれ対応 2 <http://www.geocoach.co.jp/help/SHPRoundRevise2Dialog.pdf>

と同じ処理内容ですが、対象と参照のシェープファイルについてフォルダを指定して実行します。座標を調整したシェープファイルは、別のフォルダに保存します。

元のシェープファイルの編集段階で、座標値が丸められたり、わずかに移動されたりした場合、最終的に元の座標と同じ座標にするための機能です。

座標のずれ対応3

対象シェープファイルの入力フォルダ 選択...

参照シェープファイルの入力フォルダ 選択...

ずれを調整した対象シェープファイルの出力フォルダ 選択...

処理

1. 連続した同一XY座標の点を削除する

2. 点を近傍の参照の点に移動する

対象の点と参照の点との距離 mm以下

3. 点を近傍の参照の線分上に移動する

対象の点と参照の線分との距離 mm以下

4. 線分に近傍の参照の点を挿入する

線分と参照の点との距離 mm以下

5. 長さ0のポリライン、面積0のポリゴンを削除する

オプション

[編集フラグ]をセットする

OK キャンセル 設定を保存 設定を開く ヘルプ

対象シェープファイルの入力フォルダ

ずれの調整を行うシェープファイルのフォルダです。

参照シェープファイルの入力フォルダ

編集前のシェープファイルを指定します。

ずれを調整した対象シェープファイルの出力フォルダ

対象のシェープファイルの座標を調整したシェープファイルを保存します。

編集フラグをセットする

チェックを外しておきます。

対象のシェープファイルについて次の処理を行います。

- ① 対象のシェープファイルと同じ名前のシェープファイルを参照のフォルダで探します。
- ② 同じ名前のシェープファイルが参照になれば、そのまま出力フォルダに出力します。
- ③ 同じ名前のシェープファイルが参照にあれば、参照のシェープファイルの座標を基準に、対象のシェープファイルデータについて「処理」の項目の処理を行います。1 から 5 までの処理を 1 セットとし、座標の移動があれば、再度 1 セットを行い、座標の変更がなくなるまで 1 から 5 の処理を繰り返した後、出力フォルダに保存します。

(7) 建築物.shp: 近傍の点上に移動した点 距離=0.07831185932159246mm (-85824.810, -26548.960)
(8) 建築物.shp: 近傍の点上に移動した点 距離=0.054983681080146875mm (-85826.740, -26552.080)
(9) 建築物.shp: 近傍の点上に移動した点 距離=0.2604856017118431mm (-85814.490, -26559.680)
(10) 建築物.shp: 近傍の点上に移動した点 距離=0.04128996542067391mm (-85819.600, -26634.030)
(11) 建築物.shp: 近傍の点上に移動した点 距離=0.04527089302494377mm (-85799.630, -26626.540)

ガイド	レポート	チェックリスト1	チェックリスト2	確認リスト
-----	------	----------	----------	-------

2. 範囲と属性一致チェック

新メニュー[チェック]-[範囲と属性一致チェック]を追加しました。

ポリゴンのシェープファイルについて、範囲とフィールドの内容が一致していることを調べます。

たとえば、市区町村の場合

対象 : 町村のポリゴン

参照 : 市のポリゴン

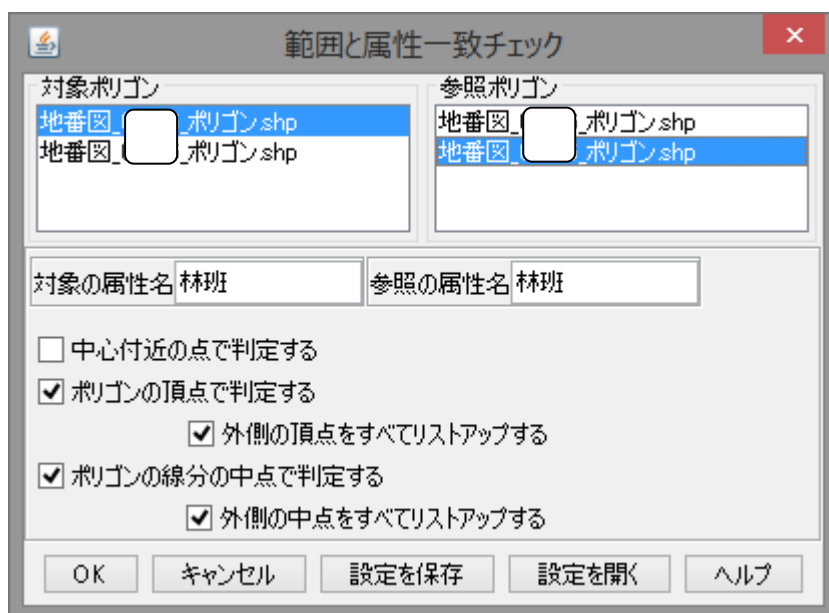
で、それぞれにフィールド「市名」があるケースです。

以下の説明では

対象 : 小班

参照 : 林班

で、フィールド名は「林班」の例です。



対象ポリゴン

チェックの対象となるポリゴンシェープファイルを指定します。

参照ポリゴン

参照するポリゴンシェープファイルを指定します。

対象の属性名

対象のポリゴンシェープファイルの属性名称を指定します。

参照の属性名

参照のポリゴンシェープファイルの属性名称を指定します。名称は対象と異なっても、値の内容は対象と同じ属性を指定します。

中心付近の点で判定する

ポリゴンの中心付近の点で、参照ポリゴンの中に入っているかを調べます。中心座標を計算するのに時間がかかります。

ポリゴンの頂点で判定する

ポリゴンの各頂点について、参照ポリゴンの中あるいは線上にあるかを調べます。

外側の頂点をすべてリストアップする

ポリゴンの頂点を調べて、参照ポリゴンの外側に出ている点をすべてリストアップします。OFFの場合、ひとつのポリゴンについて、最初に検出した点だけをリストアップします。

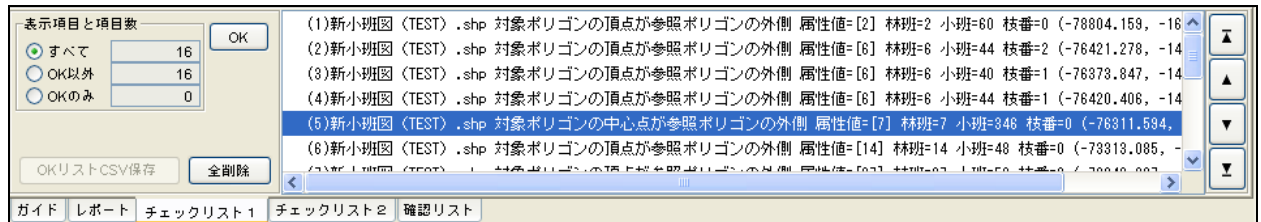
ポリゴンの線分の中点で判定する

ポリゴンの各線分の中点について、参照ポリゴンの中あるいは線上にあるかを調べます。

外側の中点をすべてリストアップする

ポリゴンの線分の中点を調べて、参照ポリゴンの外側に出ている中点をすべてリストアップします。OFF の場合、ひとつのポリゴンについて、最初に検出した中点だけをリストアップします。

対象となるシェープファイル(新小班)のそれぞれのポリゴンについて、指定された属性名(林班)に注目し、同じ属性値(林班番号)を持つ参照ポリゴン(新林班)の中に入っているかをチェックします。対象ポリゴンの中心付近の点と外周線・内周線の頂点について、参照ポリゴンの内側かをチェックし、外側にある場合リストアップします。



チェックリストには、中心点で判定した場合、「中心点」、ポリゴンの頂点で判定した場合「頂点」、ポリゴンの線分の中点で判定した場合「中点」と表示します。

対象ポリゴンと同じ属性値の参照ポリゴンがない場合、対象ポリゴンをリストアップします。

対象ポリゴンの属性値が空白の場合、属性値が空白の参照ポリゴンをしらべます。リストアップには「(空白)」と表示します。

属性値がゼロパディングされた整数の場合、整数値として比較します。

3. 隙間ポリゴンを吸収する

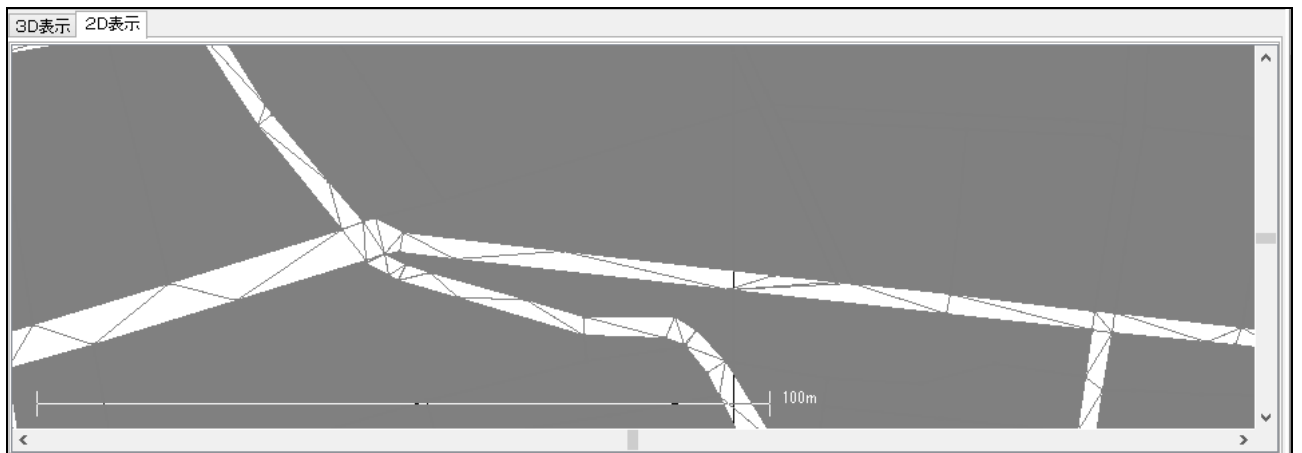
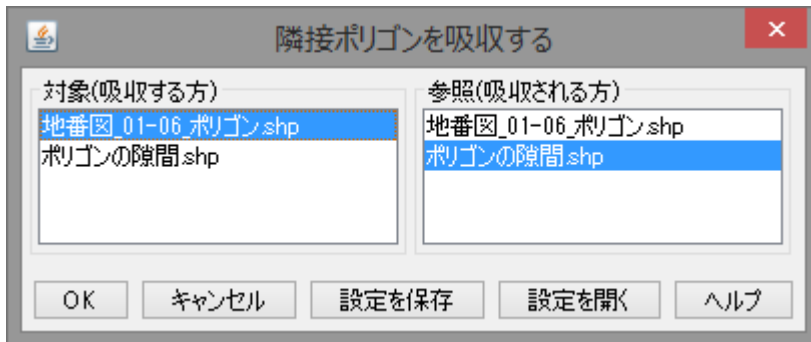
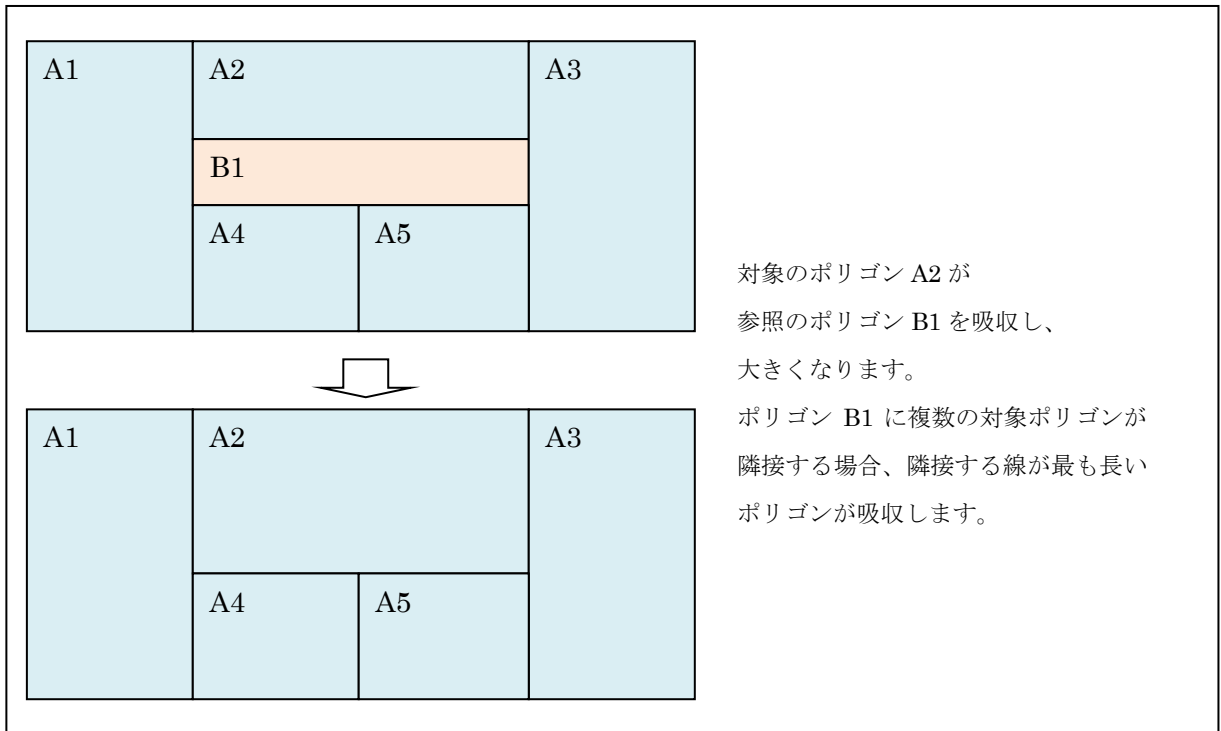
メニュー[チェック]-[隙間ポリゴンを吸収する]を追加しました。

メニュー

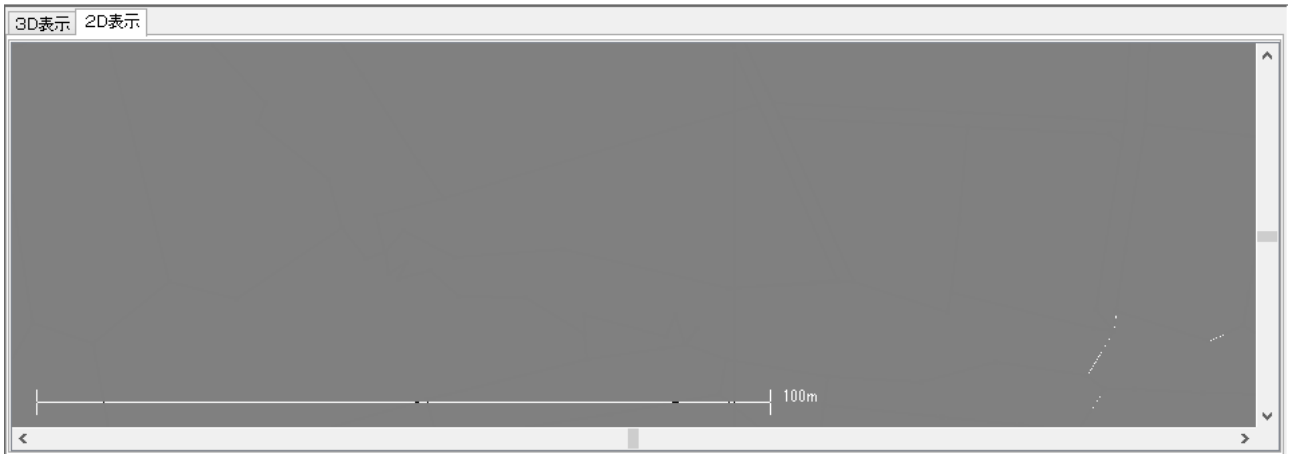
ポリゴンの隙間 <http://www.geocoach.co.jp/help/SHPPolygonChinkDialog.pdf>

で作成したポリゴンを吸収して、ポリゴン間の隙間を埋めるための機能です。

あるポリゴンのシェープファイルについて、他のポリゴンシェープファイルのポリゴンが隣接する場合、そのポリゴンを吸収して大きくします。



上図で、グレーの部分が元のポリゴンで、白色の部分(三角ポリゴン)が、メニュー「ポリゴンの隙間」で作成したポリゴンです。



上図は、グレーの部分のポリゴンが隙間を吸収した結果です。